

2002年10月13日

国土交通省・東京都

PI外環沿線協議会

東京環状道路有識者委員会 各位

要 望 書

三原台・まちづくりを考える会

代表 池尻成二

私たちは、練馬区三原台、東大泉、石神井町など泉新小学校、三原台中学校の学区域を中心に地域のまちづくりをさまざまな角度から考える活動を続けている会です。外郭環状道路計画についても、地域的に外環道大泉インターチェンジの南側直下に位置することもあって、重大な関心をもってまいりました。今年3月には、100名を越す住民の参加を得て、国・都の担当者を招いての説明会も開催したところです。

外郭環状道路建設計画については、先ごろ、国土交通省および東京都より「計画のたたき台」が示される一方、PI外環沿線協議会などを通じて、必要性の有無に立ち返っての議論が開始されておりますが、この計画によって直接、大きな影響を受ける地域の者として、以下、要望致します。

1. 「計画のたたき台」のなかには、ジャンクション部についての具体的な記述がほとんどありません。私たちが開催した説明会でも、参加した住民の共通した思いとして、「これでは自分たちの地域がどうなるのか、議論のしようがない」という強い声が出されました。「計画策定の初期の段階から多くの皆さんのご意見をお聞きし、計画づくりに反映させていく」(東京外かく環状道路調査事務所)ためにも、ジャンクション部分の基本的な構造、地上部のありよう、周辺環境への影響等についての具体的な「たたき台」を早急に示してください。
2. 「たたき台」では地下化を基本とした案が示されていますが、3月の説明会では関越道とのジャンクション部では地上構造が残るとの説明がありました。もしそうだとすれば、他の地下化部分に比べても地域分断、環境問題など大きな影響が出るのが予想されます。必要性の有無(効果と影響)を検討するにあたってはジャンクション部にあたる当地域

の特殊な事情に十分に配慮し、この地域の住民がとくに大きな不安と負担を強いられることのないようにして下さい。

3. 外環道大泉インターの開通以来、私たちの住む地域の交通事情は一変しました。とくに、外環に出入りする車輛による放射7号(目白通り)の渋滞、そして多くの高速道路利用車輛が生活道路をバイパス代わりに使うために、道路の危険性が増し、騒音、排気ガスなど私たちの生活環境は大きく悪化しています。現在、外環道については「必要性の有無」にまで立ち返って議論をしていること、計画が決定されたとしても最終的な道路開通まではさらに長い時間を要することからしても、外環道が延伸すれば問題は解決するといった説明で納得することはできません。外環計画の如何にかかわらず、大泉インター開設にともなって悪化した生活環境を取り戻すために、国・都は責任をもって対策を講じてください。

以上